

白石市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

菅野 恭子



〔質問〕基本目標1の「産業の活力を生む新しい価値を創造し続けるまちづくり」について、地方創生先行事業として、すでにスタートしている伝統工芸品『白石和紙』の後継者育成の進捗状況を伺う。

〔答弁〕【市長】指導予定の方が高齢のため、現場での対応が困難な状況にある。

しかし現在、本市には「白石和紙を残したい」という強い思いを持ち取り組んでいる市民グループがある。この方々と技術の継承という観点から連携を図っていききたい。

〔質問〕『白石和紙』を維持継承していくには、産業化し発展させていく必要があると考える。

経済産業省の調査では、和紙製品の海外輸出が増加傾向にある。

全国的にも知名度の高い『白石和紙』の産業化を目指し、後継者育成と並行してその方途を検討していくべきではないか。

〔答弁〕【市長】白石和紙の場合、現時点では、復活できるような技術を継承していくことが大切であると考える。

〔質問〕基本目標3の「安心して子どもを産み育て、心やすらかにくらするまちづくり」について、「産科医療機関の支援」の中で、産婦人科医師の招へいに努めるとある。

全国的に産婦人科医師が不足する中、どのように取り組むのか伺う。

〔答弁〕【市長】今後、市内に開業する産婦人

科医療機関への優遇や刈田総合病院に勤務する産婦人科医師に対し、何ができるか検討している状況である。

〔質問〕子どもの健康は、本人・家族の幸福であり、そして本市の発展に直結するものである。

基本目標3は、地方創生の要でもあると考える。より市民の心に沿った方向へ推進できるように、季節性インフルエンザ予防ワクチン接種の助成対象を、生後6カ月から中学3年までに拡大すべきと強く主張するものである。

そのため、基本目標3にこの内容を加え、実施に向けた検討をすべきと提案するが見解を伺う。

〔答弁〕【市長】育てやすい環境づくりという観点から、インフルエンザの予防だけでなく、今後いろいろな面を踏まえ、総合戦略の中で考えていきたい。

人口減少抑制について

澁谷 政義



白石市まち・ひと・しごと創生総合戦略「人口ビジョン」の将来展望の中で、将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析から質問をする。

〔質問〕人口減少を抑制し向上させるため、出生率の上昇が不可欠で、結婚支援策が必要である。行政がリーダーシップを取り、仲人などのプロジェクトチームを立ち上げ、出会いの場を広く推進してはどうか。

〔答弁〕【市長】総合戦略では、民間団体と連携しながら、仲間づくりを通じた交際・結婚を応援していくこととしている。そのため現在は、仲人などのプロジェクトチームを立ち上げる考えはない。

〔質問〕適齢年齢の方の約70%強が、恋愛関係にないデータも出されている。住民等の中にも高いアンテナをお持ちの方がいる。広く人力を活用すべきと考えるがいかがか。

〔答弁〕【市長】地域にそういう人は必要だと考えるが、それを笑顔で受け入れる環境づくりも大切である。

〔質問〕結婚後の福祉策について、経済的負担軽減策として、白石市新家庭家賃補助金制度があるが、思い切った住宅費の無料化を図ってはいかがか。

〔答弁〕【市長】一定程度の受益者負担は必要と考え、住宅費の無料化までは考えていない。

〔質問〕財政を圧迫させるが、長い目で見れば各税収増が期待できると思うがいかがか。

〔答弁〕【市長】定住から経済が回るのも事実であるため、しっかりと見据えていきたい。

〔質問〕人口の社会増をもたらず施策、定住の促進と移住の推進について、まちづくり総合戦略案をもとに新たなプランを描いてみてはどうかか。

〔答弁〕【市長】民間事業者と連携し、定住促進事業の推進を図り、さらに空き家等の利活用等を検討している。

◎危機管理について

〔質問〕庁舎内で、あらゆる不測の事態を予測した危機管理体制が図られているのか伺う。

〔答弁〕【市長】庁舎管理規則に基づき、管理責任者や室管理者を指定している。また、危機に直面した所属から直接警察や関係機関に支援要請できるように現在検討している。